

RED HAT ENTERPRISE LINUX 5

特徴と機能とその効果

特徴	機能	効果
仮想化	パラバーチャリゼーションとフルバーチャリゼーションをサポート。仮想化機能はサーバのRed Hat Enterprise Linux サブスクリプションに含まれ、Virt-managerとlibvirt/virsh管理ツールも含まれます。	より低コスト、高可用性、高いセキュリティを実現し、今までのようにアップグレードが必須ではなくなります。より高いパフォーマンスと多くの機能を持ったパラバーチャリゼーションはRed Hat Enterprise Linux 4とRed Hat Enterprise Linux 5をゲストで利用でき、分かり易くフレキシブルな管理が可能です。
Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform	サーバ、ストレージの完全仮想化、複数ゲストと複数システムの論理ボリューム管理、分散アプリケーション同期、Red Hat Global File System、Red Hat Cluster Suiteを含んだ新製品です。	1つの製品で完全な環境を作成するために基本的な仮想化と相乗効果のあるストレージとクラスタコンポーネントを同梱しました。
セキュリティ	SELinuxとMulti-Level SecurityによりEAL4+/LSPP認定を受けました。全てのサービスはTargeted Policyにて防御されています。GUIのSE-Troubleshooterにより分かり易くリアルタイムにセキュリティ情報を確認できます。Smart Cardログインをサポートします。Dm-cryptというDevice Manager Targetを使用して全てのマウント可能なデバイスを暗号化できます。	アメリカ政府が要求するセキュリティ機能を満たします。管理を簡単にすることで高いセキュリティ要求を低コストでしかも高い技術力を必要とせずに可能にします。Smart Cardログインのサポートによりユーザー認証や侵入者の発見、防御をより効果的に行えます。Red Hat Directory Serverとの統合がさらに進みました。ストレージデバイスの暗号化により全てのデータを暗号キーで保護できます。この機能はラップトップPC等に効果的です。
監査	監査用のサブシステムへの改良は検索ツールとレポートングツールの追加に加えてリアルタイムインターフェイスを含みます。監査機能はSELinuxに含まれます。SELinuxと監査機能はアップストリームカーネルでの唯一のMandatory Access Controlセキュリティとレポートング機能になります。	これらの監査機能により、Red Hat Enterprise Linux 5はアメリカ政府の認定であるCAPP/LSPPやNISPOMの要求を満たします。またお客様の組織が(米国)SOX法やHIPPA等で規定された要求を満たす手助けにもなります。
Microsoft® Windows®との相互運用性	Sambaの改良により、Microsoft® Active Directory®との親和性がさらに高まりました。より一貫したユーザー/グループのマッピングや入れ子グループが可能になりました。	ユーザー、リソースの一貫した管理によるコストダウンが可能になります。すでにお客様の環境にあるMicrosoft®のファイル、プリント、認証環境へのシンプルな統合ができます。
シンプルな製品構成	AS,ES,WSといった製品構成をやめ、サーバ、クライアントという構成にオプションを追加可能な形態へと移行しました。Red Hat DesktopをRed Hat Enterprise Linux Desktopに変更し、Red Hat Network Proxy/Satellite Serverの環境が必須ではなくなりました。	2つのサーバソリューションと1つのクライアントソリューション Red Hat Enterprise Linux : 仮想化を含む小規模、中規模サーバ向け Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform : 大規模Webサーバから企業データベースを含むデータセンターシステム等向け。サーバとストレージの仮想化機能を提供します。 Red Hat Enterprise Linux Desktop : 多機能のエンドユーザー環境を提供します。
管理機能	Red Hat Networkクライアントであるup2dateをオープンソースのyumアップデータとGUIフロントエンドであるPupに置き換えました。Red Hat Networkのチャンネルにアクセスするためにyum用のRed Hatプラグインが同梱されます。仮想化されたシステムを管理するためにRed Hat Networkもアップデータされました。libvirt, virsh, virt-managerといった多数の仮想化管理ツールを同梱しました。	オープンソースのYum/Pupアップデータはup2dateよりもより強力なパッケージ管理環境を提供し、同時にパブリックのリポジトリにもアクセスが可能です。仮想コントロールライブラリであるlibvirtはアプリケーション管理のための標準の安定したAPIを提供します。Virshにより仮想化の動作をスクリプトでコントロールできます。また、virt-managerは強力なGUIを提供します。

特徴	機能	効果
改良された分散システム	AutoFSの改良によりダイレクトマップ機能やlazy mount/unmount機能を提供します。マウントマップはプロプライエタリのUnix環境との共有も可能です。BindはKerberosを使用したLDAPサーバやDigest-MD5との認証が可能になりました。NFSv4は最新の機能であるSecureNFSやServer-side delegationをサポートします。	NFSのようなネットワークファイルシステムのセキュリティとパフォーマンスを向上しました。他のUNIX環境へのスムーズな導入を可能にすることで管理コストの軽減、パフォーマンスやセキュリティの向上やマイグレーションの簡易化が可能になります。
パフォーマンス	FS-Cache：リモートファイルシステムのためのローカルキャッシュ、I/Oキュースケジューラ選択、SMPロックングの改良やCPUセットのサポート、circular buffer pipeの導入等多数のパフォーマンス向上のための機能が強化されました。	更に効果的にハードウェアリソースを活用でき、アプリケーションのスループットが向上します。大規模なSMPシステムでのスケラビリティが向上します。
ファイルシステム	Red Hat Enterprise Linuxはシングルシステム用（もしくは仮想化ゲスト用）のRed Hat Global File Systemを同梱します。また、Ext3の改良によりパフォーマンスの向上と16TBまでのスケラビリティを提供します。	より簡単なアップグレードと高いスケラビリティを提供します。全てのシステムで非常にスケラブルなGlobal File Systemをシングルノードにて利用可能。将来的にマルチゲストもしくはマルチシステムにて共有されるストレージの導入が非常に簡単になります。
開発ツール	GCC4.1コンパイラやGlibc 2.4をSystemTapプロファイラやFryskデバッグと組み合わせる事で業界随一のコード作成、カーネルプロファイリング、multi-system/process/thread、ユーザーモードデバッグを可能にします。	アプリケーション開発、デバッグ、パフォーマンス解析を加速させ改善できます。
デスクトップ環境	グラフィックサブシステムをMetacity Window ManagerとCompiz Compositing Managerを利用して改良しました。GNOME、OpenOffice、Firefox等のアプリケーションセットをアップデートしました。ワイヤレス機能とラップトップPCの機能が大幅に改善されプリンター、カメラ等のUSBデバイスのサポートも強化しました。	デスクトップ環境をより快適に利用できます。ネットワークやグラフィック環境の自動的な設定が可能です。フェード、ズーム、回転といった数多くの楽しめるデスクトップグラフィックを提供します。多くのノートPCのサスペンド、レジューム、電源管理サポートを追加しました。Microsoft® Office®との互換性も強化されています。
Stateless Linux	サーバ、クライアントのシステムイメージを多数の物理マシンに素早く配備するための様々なテクノロジーの集合体です。全ユーザーデータ、設定情報は安全にファイルサーバ上で管理されます。	簡易化されたプロビジョニングと複数のシステム(物理、仮想、サーバ、クライアントのいずれでも)の管理機能によりセキュリティ、データ管理、アドミニストレーションのスケラビリティを向上します。Red Hat Enterprise Linux 5では初期機能を提供し、今後の新しいバージョンにおいて正式に追加予定です。
デスクトップ製品オプション	Red Hat Enterprise Linux DesktopはWorkstationとMulti OSのふたつのアップグレードオプションを提供します。	Workstationオプションはハイエンドのクライアントシステムとパワーユーザー向け機能を提供します。Multi OSオプションは仮想化機能を提供します。
マルチパスI/O	Rootデバイスサポートとシステムインストール時の設定オプションを追加しました。	複数のI/O設定に対するフェイルオーバーとロードバランス機能により可用性とパフォーマンスを向上します。

●製品やサービスの詳しい内容につきましては、下記URLをご覧ください。